



防災だより

～地域福祉等推進特別支援事業～

社会福祉法人
八重瀬町社会福祉協議会

八重瀬町字東風平1318-1

電話:998-4000

ファックス:998-8999

社協HP

<http://yaesheshakyo.com/>



さいがい つよ やえせちょう めざ
災害に強い八重瀬町を目指して!

⚠️ 備えを見直そう防災展 ⚠️

～東日本の震災から10年、どう備えるのか～

在宅避難?

車中泊避難?

避難所?



電気・水道・ガスが9割程度復旧するまでの日数

| | 東日本大震災 (2011.3.11) | 阪神淡路大震災 (1995.1.17) |
|----|-----------------------|------------------------|
| 電気 | 6日 | 2日 |
| 水道 | 24日 | 37日 |
| ガス | 34日 | 61日 |

災害時など避難においてやむを得ず自宅避難や指定されていない施設を避難所として利用することも多くあります。それは、ライフライン機能が途絶えても避難生活の不自由さを軽減することができると思います。

もし被災したら、どうすればよいかわからない不安な精神状態に陥ることもあり、被災したショックに加えて肉体的にも精神的にもダメージが大きくなります。少しでも普段の生活に近い環境を整えることを最優先に備えておきたいものです。

令和2年度備えを見直そう防災展 ~東日本の震災

【目的】

東日本大震災から思いがけない災禍のなかで迎えた10年目。コロナ禍であるこの現状で、もし今災害が起きたら、どのように行動すべきか備えを見直すことが必要となってきています。

災害発生時のさまざまな情報を迅速かつ的確に入手し、身を守るために安全な場所に避難するなど、防災行動に繋げるためには、家族間での日々のコミュニケーションにおいて「命」を守る計画を立てておくことはとても重要です。

いざという時、避難してきた先にあるものは何か。過去の災害を振り返り、自助・互助・共助・公助について考えます。



指定避難所



八重瀬町防災マップ



災害時要援護者
支援台帳



津波フラッグ



展示会の様子



アンケート



自衛隊活動動画



展示会の様子



防災グッズ



展示会の様子

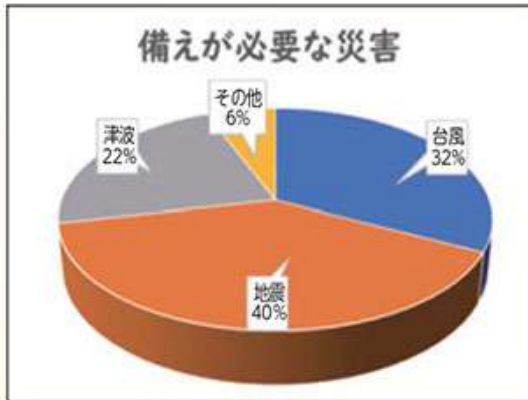


避難所用テント



救助機材と簡易トイレ

から10年、どう備えるのか～



アンケートにおいて備えが必要な災害は?に答えた集計とアンケートの声

- ・ふだんの備え、改めて考えたいです。
- ・とにかく逃げる場所を決めておこうと思いました。日ごろから身軽に過ごすことを意識しています。
- ・家族での防災意識が乏しいことがわかりました。今後の備えの大切さを意識し準備していきたい。
- ・まだ実感がわかない自分があります。
- ・防災に備えるための情報がたくさんあって、とてもよかった。など

地域や近所とのつながりが、災害時に高齢者の方の命をつなぐ

2011年3月の東日本大震災では、被災地全体で亡くなった方のうち約6割が65歳以上の方であり(総務省消防庁「平成30年版消防白書」より)その要因の一つに、一人で動く事が困難であったり、避難する体力がなかったり、自力で避難することが出来なかったことが挙げられます。

Qどんな情報を得て、避難されましたか?

避難行動に関わる情報源

- | | |
|------------------|------|
| 1位 家族・同居人 | 101人 |
| 2位 近所・友人 | 97人 |
| 3位 福祉関係者 | 74人 |
| 4位 テレビやラジオ等の情報 | 34人 |
| 5位 警察・消防(消防団員含む) | 30人 |

内閣府「避難に関する総合的対策の推進に関する実態調査結果報告書」より



協力団体との調整



自衛隊機材



奉仕団活動の様子



日本赤十字社救護班の活動記録



島尻消防の活動



展示会の様子

主催:八重瀬町社会福祉協議会

協力:八重瀬町役場(備蓄品展示)

自衛隊八重瀬分屯地(支援機材、活動動画放映)

島尻消防組合消防本部(管轄での活動、防災教材)

八重瀬町赤十字奉仕団(災害時炊き出し機材、防災教材)

沖縄総合フーズ(資料提供)

令和2年度 5年生総合的な学習 学年テーマ「防災に強い町づくり」

主催：八重瀬町立 東風平小学校
協力：八重瀬町社会福祉協議会

目的： 八重瀬町の人々の安心な暮らしを支える防災の充実を目指した活動を通して、自らを守ること（自助）はもちろん、他者と協力し合っ自分たちを守ること（共助）の大切さを理解し、持続可能な八重瀬町の防災の在り方について考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。



1年を通して「防災」の計画をたててスタート



町内の区長・自治会長さんと東風平地区担当CSW（コミュニティソーシャルワーカー）、社協防災担当も協力させていただきました。



地域ではどのような備えをしていますか？
区長・自治会長会へインタビューの協力を依頼。



非常持ち出し袋はどうして準備する必要があるの？
どんなものを準備すると良いの？準備物の講話。

役場の施設について（見学）

八重瀬町役場防災担当へ聞きました！

Q:役場の建物は地震に耐えられますか？

役場本庁舎建物には、**耐震室**や**備蓄倉庫**があり、ガラスは**強化ガラス**を使用しています。





? 区長・自治会長にインタビュー ?

地震が起こった時、自治会長さん達が一番初めにすることはどんなことですか？

家でも防災かばんを準備しようと思っ
ていますが、災害に遭った後、自治会
からも食糧や水などはもらえますか？

? 災害に遭った時には、どこに避難したら
よいですか？また、公民館や自治会館は
避難所になっていますか？



? 災害に遭った後、電気を使うために、
自治会には発電機はありますか？

? 防災への取り組みについて、僕たち、わたし達に
伝えたいことはありますか？

避難訓練を真剣に取り組みましょう。隣近所との付き合いを大切にしま
しょう。日頃から「あいさつ」をするなど見守り、見守られ活動につなげ
ましょう



私たちに何ができる？福祉体験 防災と福祉について

八重瀬町社会福祉協議会では、防災福祉教育を積極的に実施しています！



知っていますか？町民の声

八重瀬町では、平成29年に町民向けにアンケートを実施しました。

ゆいゆい八重瀬しあわせプラン

アンケート調査まとめ

【※集計した課題を一部抜粋】

- ・町民に対して、防災・減災教育の充実・強化を図り、避難場所・防災マップの周知を高める必要がある。
- ・町民が災害時に向けて普段から備えることが出来るよう、地域ぐるみの取り組みを進める必要がある。

・支援者の育成等支援体制の整備を図る必要がある。

そこで、東風平小学校の5年生のみなさんが、これからも防災福祉教育をきっかけに更に防災に強い街づくりを考え広めていくことを願います。)

これからも私たち八重瀬町社会福祉協議会では、防災福祉教育を積極的に実施します。

東風平小学校5年生は、防災について学んだ内容をポスターと動画にまとめて届けてくれました。発表会の開催がコロナの影響でできなかったということで、社会福祉会館にて展示と放映をさせていただきました。



地域力向上研修会 —防災からの地域づくり—

目的: 昨今の地域福祉の課題は複雑化・多様化・深刻化しており、社会的背景等から地域や社会から孤立を余儀なくされている方々があります。社会的孤立をつくらないためには、地域での支え合い体制の構築や地域づくりが求められています。

そのような中、3年間の社会的孤立対策モデル事業も最終年度を迎え、その間、モデル地区を18地区指定することができ、地域福祉の基盤づくりを推進してきました。また、各地域に設置している支え合い委員会と連携し、支え合い体制の構築を図ってきました。

そこで、本研修会では、支え合い体制や地域づくりを更に充実・発展させることと東日本大震災から10年を迎える中で改めて互助・共助の重要性を考え、防災からの地域づくりとして、災害時におけるニーズ把握や安否確認体制・支援体制の構築を図り、誰もが安心して暮らしていける地域共生社会の実現を目指すことを目的に開催しました。

講話: 足元から考える、地域づくりにつながる防災実践(午前の部)

沖縄本島および八重瀬町の地形には、断層や段丘などによる傾斜地や坂道が極めて多く、移動困難者の避難を阻む要因になっています。避難の際には多くの課題があふれています。

沖縄の住宅における共通のリスク

- ① 家具類が固定されていない!
- ② 「窓欄」が脱出・救助を阻む
- ③ 木造・老朽コンクリート住宅密集
- ④ ブロック塀・落下物

避難スイッチを
どう入れる?

要支援者
名簿登録

老老避難

避難情報が
間に合わない

避難しない人

避難拒否



犠牲者を多く出した東日本大震災被災地の取り組みをロールプレイングで実践。
あなたは避難の声掛けに対してすぐに避難できますか？

見知らぬ人が訪問

知り合いが訪問

地域での新しい避難 訓練や支援の工夫

避難誘導の際に顔の見える関係がある場合と全く知らない人が声をかけに来た場合での比較



比較

—令和3年3月5日(金)—

午前の部、午後の部開催

防災パネル展示



東日本大震災から10年。社協が取り組む「防災からの地域づくり」をまとめた避難訓練などの記録を展示しました。

参加者の声

- ・災害時の避難の様子、沖縄の問題点や食料等についてよく分かった。また高齢者の方の避難の難しさを感じた。
- ・いろんなことを想定して考えたり、話し合う機会を作る。自分の地域でもマップ作りなど体験してみたい。「まず地域を知る!!」
- ・普段の訓練の必要性を感じた。
- ・地域には若者が少ないため助けを求めるのは困難かなと思います。何か起きたらパニックになると思います。など

講話:災害時の要援護者支援と津波避難を考える(午後の部)

「災害」を切り口に地域づくりを考えていきます。災害要援護者の支援(特に高齢者)また、支援者の被害も甚大です。災害から守るには「ふだんの暮らし」そして、地域づくりの「プロセス」と気になる方の「見守り・支え合い」活動を心がけましょう。ワークショップでは、災害に強い地域づくりと福祉マップをテーマにマップ作りを一緒に進めていきます。

物理的な被害

心理(精神的)な被害

身体的な被害

人的つながり

環境の被害

経済的な被害

被災者がおかれる状況



特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく
副代表理事・事務局長 宮道喜一氏



① 仮想地区のマップで地域資源や被災場所を想定します



② 「災害」が起こるとどのような課題(支援)が必要になるか考えます



③ 支援が必要な世帯をどのように普段から接していくことが良いのか話し合います

あなたの住んでいる地域に置き換えた場合、普段から地域の方とのコミュニケーションは必要だと感じますか?「遠くの家族より近くの他人」自助・互助・共助について改めて考えます。

令和2年度 島尻消防職員協議会・八重瀬町社協連絡会



日頃から関係機関・団体と円滑な活動を行うため、支援・救援に係るボランティアの活動等、双方が効果的な実施及び連携・協力の促進を図ることを目的に、令和2年11月16日(月)島尻消防職員協議会と八重瀬町社会福祉協議会職員との連絡会を開催しました。

◎内容1：「八重瀬町社会福祉協議会の業務」について
社会福祉法人 八重瀬町社会福祉協議会
事務局長 石川 健

◎内容2：「社会的孤立対策モデル事業」について
コミュニティソーシャルワーカー 赤嶺 晴香

令和2年度 広域避難訓練

令和2年11月5日、八重瀬町が主催する「令和2年沖縄県広域地震・津波避難訓練」において、訓練地域(港川・長毛・長毛団地)の字別現況(人口・世帯数・高齢化率等)の説明とパネル展示を行いました。

大規模災害時に一人で避難することが困難な人については、要援護者見守り台帳などの登録と平時から地域で情報共有をすることで支援に繋がります、また、災害時には一人ひとり自ら身を守る「自助」とともに、地域で助け合う「共助」が欠かせません。共助力を高める為にも積極的に、避難訓練や地域行事に参加することの大切さについて説明を行いました。

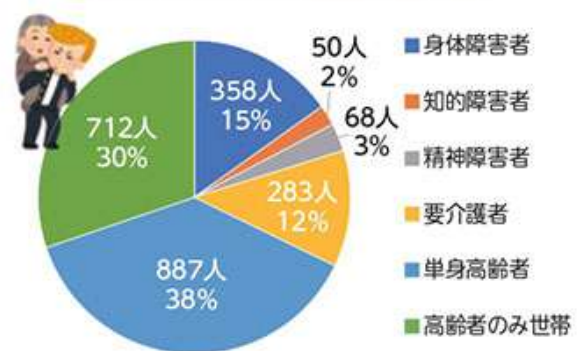
要援護者見守り台帳とは：災害時に障がいのある人や高齢者など自力で避難することに不安のある者が、地域の中で災害時等における支援を迅速に受けられるようにするため、必要な情報を事前に把握し、見守り支援体制を推進することで、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービス・制度・関係機関へつなぐ等の支援を行い、町と地域で平常時からその情報を共有することにより、地域で安心して暮らすことのできる支援体制の整備を図ることを目的としています。

※対象者：障害者は各障害手帳保持者。要介護者は要介護3～5の方。
(八重瀬町災害時要援護者支援台帳整備事業実施要綱より引用)

災害弱者とは：災害時に特に不利になる人をいいます。これは、通常、家屋倒壊を伴う大地震や集中豪雨などの大災害の際に、普通に行動し、避難することが困難な人を指し、具体的には、**高齢者や障害者、傷病者、妊婦、乳幼児、日本語の理解が十分でない外国人、当該地域の地理に疎い観光客(旅行者)などが該当します。**(防災ナビより引用)

地域の**防災力**を高めるためには、**日頃からの備えと家族や地域とのコミュニケーション**が**大切**です。

東風平中学校区要援護対象者数



具志頭中学校区要援護対象者数

